

自己評価報告書(最終報告)

報告者

人間形成コース／木内 陽一

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

今まで私は、学生に海外留学を勧めてきた。異文化に触れることにより、自己を人間的に高め、視野の広い教員を養成し、学校現場に送り出せると考えたからである。しかし本学の学生は消極的で、積極的に外国に出ていこうとする学生は少ない。そこで視点を変えることに思い至った。

外国人留学生は本学の財産である。豊かな教養、現代日本の教育を省察する能力の育成のために、「外国人留学生の活用」ということに留意したい。学部講義「人間形成原論」の自由課題として、外国人留学生へのインタビューを課したい。また、大学院の講義「教育哲学研究」や演習「教育哲学演習」に外国人留学生の参加を促し、議論の活発化を促進したい。

2. 点検・評価

「人間形成原論」で課したレポートは、大成功であった。受講学生は自分の英語力に応じて、さまざまな外国人にインタビューし、それらの国の文化や教育について省察することができた。自由課題ではあるが、このような課題によって、教師になっていく学生が少しでも広い視野を持つことを切に願う。

大学院においても、すでに中間報告したように、アジアからの留学生が、受講者に示唆の多い刺激を与えている。重点目標に表現された「豊かな教養」といった場合、異文化との取り組み、異文化との対話が大変に有用であることを感じさせる一年間であった。私自身も本学の国際交流にさらに努力していきたいと考えている。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

鳴門教育大学フィルハーモニー管弦楽団の顧問として、フィルハーモニーの再建に努力したい。

2. 点検・評価

3月の学位記授与式でフィルハーモニーが演奏し、皆さんに喜んでいただいた。大学全体でフィルハーモニーを応援して下さっていることを肌で感じ、感激した。
団員に大学院生も参加し、徐々にではあるが、再建に動き出すことができた。
しかし、何分単科大学であるので、部員の人数が少なく、社会人、他大学の学生さんたちとの協働が不可欠である。さらに努力を続けたい。

Ⅱ-2. 研究

1. 目標・計画

京都学派の哲学と教育学の形成に関して、田辺元の自筆書簡の分析を通して論文を執筆し、本学の研究紀要に投稿する。

2. 点検・評価

中間報告したドイツ語の学会発表「仏教者とテオドール・リットの出会—ライプチヒ大学におけるは博士論文生としての二人の日本人僧侶—」は、テオドール・リット研究年報に投稿した。また、11月12日には、韓国ドイツ教育学会の招きで、インチョンのインハ大学の年次集会に参加し、日本におけるドイツ教育学研究の現状について講演した。
上記のように、目標とはややずれた形ではあるが、内容・意図は重なり合った仕事を、国際学会の場で成し遂げることができた。

Ⅱ-3. 大学運営

1. 目標・計画

担当する委員等の任務を誠実に実行する。とくに大学院教務委員として本学大学院の充実に何らかの寄与をしたいと考えている。また、人間形成コース長として、本コースの運営に寄与したい。

2. 点検・評価

大学院教務委員として忠実に任務を遂行した。
人間形成コース長として、コースの運営に深く関与した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

(社)徳島県看護協会の講師として、看護師の継続教育に寄与する。

2. 点検・評価

中間報告に記した6月16日の徳島県看護協会講師としての「教育原理」の講演以外には、特記に値する活動はしていない。
看護師養成に関する寄与をさらに心がけたいと思う。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)